

令和2年度 第1回滋賀県公立大学法人評価委員会開催結果（概要）

日 時 令和2年7月8日（水）
13時58分～16時15分
場 所 大津合同庁舎7階 7-A会議室

【出席委員】 北野委員（委員長）、清水委員、高橋委員、中田委員

【事務局】 澤野私学・県立大学振興課長、他関係職員

【県立大学】 廣川理事長（学長）、青木副理事長、倉茂理事、山根理事、高橋理事、
八里事務局次長、他関係職員

○開会

○澤野私学・県立大学振興課長挨拶

○委員、大学および事務局の出席者紹介

○委員長の選任

・委員の互選により、北野委員が選任された。

○委員長代理の指名

・北野委員長より、長上委員が指名された。

○委員会の進め方について

・委員会の進め方について、事務局から説明

・議題前に県立大学の概要について、資料に基づき大学より説明

（委員長）新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、前期授業の開始が遅れたようだが、
終期は伸ばすのか。

（大学）所定の15週間とは別に設定していた試験期間を工夫するなどして、終期は変えない
予定である。

（委員）県立大学におけるSDGsの取組では学生と社会の関わり、ICTの取組では学生と企業
の関わりが深いと思うが、こういった成果が生まれてきているのか。

（大学）SDGsの関連では、「近江楽座」の取組として、令和元年度には、学生主体の23団
体が地域課題の解決などに取り組んでおり、例えば、沖島の活性化や、政所茶の生産・
販売の活動について、県の「しがのふるさと支え合いプロジェクト」により地域と連
携協定を締結するなど、持続的に取り組んでいる。

（大学）「地域ひと・モノ・未来情報研究センター」では、教育の面では、大学院副専攻で
のICTに関する実践的な教育のほか、研究の面でも、例えば、彦根梨の収穫時期を分
析するなど、ICTを活用した地域課題の解決に取り組んでいる。

(委員) 学生の段階から SDGs や ICT に関して実践的な知識や経験を高めることは、座学だけでは学べないことで、社会人になって生きてくると思うので、こういった取組を更に活発化して行ってほしい。座学だけではない社会での活躍の場をともに作ってあげればと思う。

(委員) 県立大学のオンライン授業について、ライブ授業が制限されており、妥当でないと考える教員も多いとの新聞記事を見たが、こういった事情なのか。

(大学) 遠隔授業の実施にあたり、学生の受講環境を調査したところ、スマートフォンでの利用も想定されたことから、通信量の制約等も考慮して、誰もがしっかりと学べるように、一定の制限を設けたものである。授業を行う教員の中でもいろいろな意見はあると思うが、今回の遠隔授業では、毎回の課題等の提出により、授業の効果が高まったとの意見もあり、一概に質が下がっているとは認識していない。また、ゼミなどでは、学生の受講環境に支障がなければ適切な方法で実施できるようにしている。

(大学) 私も授業を持っているが、ライブ発信は行っていない。毎回課題を与え、学生から提出されたレポートを添削して返却するという形態の授業で、学生がより勉強をするようになったとの意見も聞いている。教員の負担も大きいので、様々な意見があると思う。

(委員長) 今回の遠隔授業は、準備期間がないまま急遽の実施となったことから、ミスマッチがあったことも事実だと思う。学生に遠隔授業が習慣づけば、しっかり勉強するようになるし、対面授業よりも密度が濃い面もある。Zoom を活用している大学では、授業の効果が高いといった声も聞く。後期授業に向けても、しっかり対応いただきたい。

(委員) パソコン等を自分で入手できない学生もいるのではないか。

(大学) 県の支援により、パソコンやモバイルルーターの貸与を開始している。経済的な困窮者に対しては、各種の支援制度を紹介しているほか、アルバイト収入の減少に対応するため、食料品の支給を4回行い、各回300人近い学生を支援した。

(委員) 動画配信による授業では、理解できない部分を繰り返して確認できるなど、メリットも多い。一方で、入学当初から遠隔授業になったことにより、友人関係が作れていない学生も多いと思うが、大学生活には教育以外の側面での意義もある。また、遠隔授業は、大雨などで登校ができなくなった場合にも有効であると感じたので、今回の対応を整理して、今後役に立てていただきたい。

(大学) 7月20日には、分散登校により、新入生を対象としたオリエンテーションを予定しており、学生同士の関係づくりにも配慮していきたい。

(委員長) 教員同士でもノウハウ交換のために Zoom を活用している。また、授業においては、TA や ES を活用していくのも、今後の方向性であり、教育の質向上と学生支援の両面で効果があると思う。

(大学) TA や ES は、以前から導入しており、今回も活用している。

(委員長) コロナ禍においては、留学が難しくなる。一方で、Zoom などを活用すれば、物理的な移動なしに同様の活動ができる面もあり、対応を考えていく必要がある。

【議 題】

1. 令和元事業年度における業務の実績に関する評価について

・ 令和元事業年度における業務の実績について、大学から説明

・ 論点整理資料について、事務局から説明

(委員) 中期評価の数値目標について、実際の状況や進捗はわかるのか。

(委員長) 達成目標年度における具体的な数値を掲げているものもあるが、明確な目標数値を示していないものもある。

(委員) どうしても数字に目がいってしまう。最終年度には評価されると思うが、最終年度に評価してダメならどうするのかといった違和感もある。進行管理はどのように行うのか。

(委員長) そこが難しい部分である。年度計画の評価は、進行管理のひとつであり、数値だけではないが、チェックは行っている。大学には数値がなじまないところがあり、数値目標は参考の一つであると考えている。

(大学) 数値目標が一つ達成できなかつたらダメだと言うのではなく、しっかりやっていることを見ていただきたい。主要な数値は、「数値で見る滋賀県立大学 2019」にもまとめているので、参照いただきたい。

(委員) 未来人財基金の状況はどうか。

(大学) 平成 27 年度に設立したもので、企業や卒業生からの寄附で成り立っている。平成 28 年度から 30 年度までは企業を訪問するための人材を確保していたが、企業からの寄附は 1 回限りが多く、継続しての寄附は難しい。このため、他大学の取組も参考に同窓会中心にご支援いただこうと考えている。同窓会の会報等で協力を求めているほか、使途等について PR できるよう、ワーキンググループの設置を検討しているが、コロナ禍で開催が困難になっている。今後、学生の生の声を聞くなど、力を入れて検討していきたいと考えている。

(委員) 将来像が見えてこないと感じるのはないか。将来的な人材育成に向け、しっかりと PR ができるのであれば、寄附は集まるのではないか。

(委員長) 目的別の寄附を行うことでお金が集まりやすい。細分化されると、イメージはつきやすい。ぜひ、ドライブをかけて頑張ってもらいたい。

(委員) 広報用動画の具体的な影響や効果は。

(大学) オープンキャンパスで効果を実感したかったところであるが、大学での開催は中止にした。

(委員) オープンキャンパスについては、WEB上で何かをやるのか。

(大学) WEB上でやることにしている。また、広報用動画の「カモベイバー」については、ホームページでも見れるようにしている。

(委員長) 視聴した先の効果がなかなか見にくい。

(委員) OBやOGを巻き込んでいることはよい取組と感じる。

(大学) 若者に見せると反響が大きい。我々が制作内容にあれこれ言わない方がよく、若者目線の方が受験生に受け入れられるのではないかと考えている。

(委員) 若者のアイデアや知恵や発想を取り入れアピールをすれば、寄附や企業との連携がうまくできるのではないか。

(委員長) WEBでうまい仕掛けを作るというのは難しいのかもしれないが、うまい仕組みが見つかるとう大な反響があるかもしれない。

コロナ禍において、地理的なハードルが低くなった状況で、WEBでのオープンキャンパスは定員がなくなるなどの強みもあり、デザインをどのように描いていくかが重要。

動画の続編を作成する予定はあるのか。

(大学) 今のところない。

(委員) 広報の専門部署はあるのか。

(大学) 専門部署はなく、経営企画課内に担当者がいる。

(委員) どの程度広報に力を入れるかは難しいところであるが、人材や費用等をかけ広報する予定か。

(大学) 予算が厳しく大々的な広報が難しいところ。

(委員長) 今回の動画のように卒業生等が頑張ってくれるとよい。

2. 令和元年度財務諸表等について

- ・ 令和元年度財務諸表等について、大学から説明

(委員長) コロナの影響により、大学における予算の用途が変わってきていると思う。特に旅費については節約できていると思うが、用途の変更については、議論されているのか。

(大学) コロナの影響で旅費等執行しなかった部分がある一方で、消毒など費用がかかる部分もある。今後、前期の執行状況について精査し、後期に向け振り分け等の検討を行っていきたいと考えているところ。

(委員長) 予算の再配分を柔軟に行うべきであり、zoom 等の追加などの ICT にかかる費用に予算を配分できるよう検討を行わなければならないと思う。大学運営に生かせる取り組みをおこなってもらいたい。

3. 公立大学法人滋賀県立大学の役員報酬の支給基準について

- ・ 時間の都合により、次回の委員会において審議することとなった。

○閉会